

はじめに

今年度の『地域経済』はおもに、公開講演会のまとめと、論文2題からなる。「公開講演会」は、本学経営学部の大前智文をオーガナイザーとして、2017年11月25日に本学4101教室で、『想いをつなぎ、平和を考える』と銘打って、開催した。講演会には「岐阜空襲を記録する会」(篠崎喜樹・岐阜市在)と「空襲体験を語りつぐ大垣の会」(高木正一・大垣市在)の活動を発表いただいた。その主旨としては、「平和」は幅広い観点から地域経済を確実に成立させる重要な概念であると同時に、その状態を維持する継続的かつ日常的な実践活動を意味するものであり、「平和」が地域経済ならびに本学の諸活動の基礎・基本となるという問題意識に基づき、風化しゆく戦争の体験を記録し、語りつぐ活動を支える方々の講演を聞き、さらに活発な質疑応答を通じて、その想いに触れる機会となった。

「論文」には、箕浦之治(セイノーホールディングス・株)と本学経済学部の菊本舞による『インバウンドによる地域活性化に関する研究—岐阜県大垣市及び西美濃地域の観光振興を事例として—』と、本学の中心的な地域活動であるマイスター倶楽部を長く牽引している小川尚紀の『大垣市中心市街地活性化と岐阜経済大学まちなか共同研究室マイスター倶楽部の歩み』を寄稿いただいた。前者は、「裾野の広い産業」といえる大きな経済効果をもつ観光産業は、インバウンド政策によって観光交流人口を拡大させ、地域を活性化させる原動力になりえるという視点から、大垣市および西美濃地域の実態を資料的に踏まえて、地域固有の資源を活用し、地域社会を主体としたトータルなまちづくり・地域マネジメントの一環を担う具体を明示している。本研究内容は今後、地域経済の活性化を促すために、いっそうの展開が切望される分野である。後者の論文は、1998年の設立以降、様々なプロジェクトを実施しながら活動を蓄積し、2018年に20周年を迎えるマイスター倶楽部の歴史について個々の活動を踏まえつつ、加えて大垣市中心市街地における政策の変遷が総括されている。本稿の総括は、今後の同中心市街地の活性化を考える際し重要な基盤となるだろう。なお、確認となるが、大垣市中心市街地の変容する実態に対応しながら、菊本舞の監修により継続的に進展しているマイスター倶楽部の活動は、今でこそ多くの大学で地域連携が取り込まれているなかで、全国的に俯瞰してもその嚆矢といっている。

また、今年度の「共同研究事業」は、研究代表者である本学経済学部の三和元と、共同研究者の同学部高橋利行、経営学部の原田理人および佐々木喜一郎によって、『コンビニエンスチェーンの再編と中部(岐阜)地域経済に与える影響—ファミリーマート・サークルKサンクス・ココストアの事例を中心に—』というテーマが進められている(掲載は次号予定)。この研究は、特に愛知・三重・岐阜の東海3県におけるコンビニエンス業界を取り上げ、業界再編の実態と課題を各参加研究者の専門領域から分析し、地域経済の将来予測を試行する重要な地域研究となろう。

本号は全体を通じて、地域経済の活性化を、平和や安心・安全といった一般的な社会生活や、地域財を活用した観光産業および地域づくりなどから多面的に捉える内容となっており、本学「建学の精神」で謳っている「創造発見」ならびに「地域貢献」の顕現に一助できれば幸甚である。

2018年3月

岐阜経済大学地域経済研究所長

森 誠 一